

自由に弾くことを恐れず、自分らしい解釈を表現してください。音楽を感じ、そして表現するために必要な想像力を鍛えましょう。曲のタイトルに注意を向け、それに基づいた解釈を組み立てましょう。フォルテであっても、きつい音にならないように。体の動きと出てくる音は密接に結びついています。またテクニックは、いつも音楽表現のために使われなければなりません。曲のテンポと拍子感は、一定でありながらも、必要に応じて柔軟でなければなりません。強弱は、ニュアンスをつけて柔軟に弾き分けましょう。長いフレーズを感じて、大きな感情の線を描き出しましょう。

まず初めに、とてもハイレベルな演奏をされていた参加者のみなさんに拍手を送りたいと思います。向上心のある若いピアニストが、難しい曲を表情豊かに、よいフレーズで、とてもよいテクニックで弾いている演奏を聴くことは大変うれしいことです。みなさん、徐々にショパンの音楽の美しさに気づき始めているのではないのでしょうか。シンプルさ、歌うようなフレーズ、自然なルバート、明瞭なアーティキュレーション、誇張し過ぎない正直な感情表現がショパンの音楽において最も重要な要素です。また、新しく曲をさらい始めるとき、楽譜に書かれていることを重んじてください。作曲家の考えを深く理解することが大切です。それから、常にテクニックを上達させるために努力しましょう。指を速く動かすことだけがテクニックではありません。これから数々の名曲を弾いていくうえでテクニックは役に立つツールとなります。

みなさんは、ピアノを学ぶ上で今とても大事な時期を迎えています。最も大事な時期と言ってもよいかもしれません。よりよいピアニストになるということは、ピアノの前で何時間も時間を費やすことだけではありません。音楽史や和声について学び、交響曲やオペラ、室内楽などさまざまな作品を聴いてください。作曲家や作品の時代背景について理解し、演奏する作品についての見識を深めてください。みなさんがこれからも素晴らしいピアノの世界を探求され、たくさんの幸せが訪れるようお祈りしています。

みなさんの技量に大きな拍手を送りたいと思います！

- ・これからピアノを練習する際に、強弱やアーティキュレーションの違いなど、より細かい部分にも目を向け、どのような部分その曲を魅力的にしているのかを探し出し、適切な性格で弾けるようにしましょう。
- ・もっと音の質に注意を向けましょう。ショパンの音楽を演奏するときには、旋律が歌うようでなければなりません。そのように演奏するには、レガートで弾く必要があります。
- ・全体的に、もっと自然なフレーズで弾けるように心がけましょう。時折メトロノームのような演奏も見受けられました。それでは音楽ではありません。ショパンの音楽には生の感情が詰まっており、それらを表現するためには、人工的だったりメトロノームのように規則的なテンポではなく、自然な時間の使い方が求められます。
- ・それぞれの演奏から、音楽に真剣に取り組む姿勢、音楽に共感する心などが伝わってきました。
- ・左手の表現（和声の変化、拍子・リズム）についてよく考え、よく聴くように心がけましょう。
- ・メロディの歌い方・表現の仕方について、例えば付点のリズムは、曲想その他によりそのリズムは微妙に異なるものであるはずなので、そのあたりについても考えて弾くようにすると、さらに良い演奏になるのではないかと感じました。
- ・強音（f、ff など）のフレーズを演奏する際にも音楽の抑揚を感じることを忘れないようにしましょう。
- ・弱音（p、pp など）のフレーズを演奏する際には、単に弱い音で弾くのではなく、その音楽の求める様々なタッチ（例：消え入るような柔らかい音色、或いは場合によっては輪郭のしっかりした音・・・など）で弾くようにすることが大切です。

・音楽における「、」や「。」、つまりアーティキュレーションやフレーズについて、常に考えて演奏するよう
にしましょう。

・自らの音や音楽を客観的に聴くことは、演奏者にとって、とても大切です。自分自身の演奏（映像）を、楽譜
を参照しながら、良い意味で批判的に聴くことは、きっと更なる成長につながるでしょう。

アジア大会なので、さすがに皆さんとても良く練習されていて、テクニックも安定していてしっかりまとめら
れていると思います。音色を工夫して楽しんで演奏している方がいてとても感心しました。また、会場よりも動
画は近いので、息使いが良く分かり、フレーズを大きくとらえて演奏されているのがとても良かったと思います。

先ずはこのコロナ禍の不安の中で、参加者の方々の高い向上心と、それを支え続けて頂きましたご家族や先生
の皆様に感謝申し上げます。気になった点としては、テクニカルな部分以外、ゆっくりな場面、音符の少ない箇
所での音楽をより豊かにしてほしいです。それにはペダルでなく指でのレガートを心掛けること。しかし逆にペ
ダルに関しても楽器の機能を理解して種類を設けること。そして鳴らした後の音の変化、音を膨らませたりでき
る声楽、弦管楽器の演奏を聴きましょう。そして音と音の間のハーモニーを大事にしてみましょう。

さすがアジア大会出場者ですね。皆さん実力が伯仲していて、どの方が入賞してもおかしくないと思いました。
演奏者は、それぞれ個性を発揮していて、それぞれの曲をとっても表情豊かに演奏していました。特にショパンの
美しいメロディを、たっぷりと歌えていて、とても小学生の演奏とは思えない、素晴らしい方が沢山いらっしや
いました。今回はリモート審査でしたので、皆様一番良い出来の演奏を送られたと思います。同じ会場での本番
の演奏とは違いますので、今後も色々な経験を積んで、ますます実力を発揮出来て、皆様がますます成長され
ることを期待します。